

「聖書日課」と分かち合い
5月2日(月)～5月8日(日) (文責・Y,T)

●5月2日(月) コリントー 16:15～18 コリントでパウロを支えた人たち

16:15 兄弟たち、お願いします。あなたがたも知っているように、ステファナの一家は、アカイア州の初穂で、聖なる者たちに対して労を惜しまず世話をしてくれました。

16:16 どうか、あなたがたもこの人たちや、彼らと一緒に働き、労苦してきたすべての人々に従ってください。

16:17 ステファナ、フォルトナト、アカイコが来てくれたので、大変うれしく思っています。この人たちは、あなたがたのいないときに、代わりに務めてくれました。

16:18 わたしとあなたがたを元気づけてくれたのです。このような人たちを重んじてください。

*伝道は一人ではできません。必ず、支える人、共に働く人が与えられるのです。私たちが教会で何かをしようとする時も必ず必要な人、ものが与えられます。主のご計画に感謝!!

●5月3日(火) 使徒言行録 19:31～10 エフェソでのパウロ

19:1 アポロがコリントにいたときのことである。パウロは、内陸の地方を通してエフェソに下って来て、何人かの弟子に出会い、

19:2 彼らに、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と言うと、彼らは、「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません」と言った。

19:3 パウロが、「それなら、どんな洗礼を受けたのですか」と言うと、「ヨハネの洗礼です」と言った。

19:4 そこで、パウロは言った。「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めの洗礼を授けたのです。」

19:5 人々はこれを聞いて主イエスの名によって洗礼を受けた。

19:6 パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話したり、預言をしたりした。

19:7 この人たちは、皆で十二人ほどであった。

19:8 パウロは会堂に入って、三か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説得しようとした。

19:9 しかしある者たちが、かたくなで信じようとはせず、会衆の前でこの道を非難したので、パウロは彼らから離れ、弟子たちをも退かせ、ティラノという人の講堂で毎日論じていた。

19:10 このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった。

*悔い改めることは大切なことです。しかし、そこに留まることなく、聖霊を注がれ、主に生かされ、主の道を歩くことができるのは、主の大きな愛による恵みです。主イエス・キリストに向かって、新しい命を生きてまいりましょう。

●5月4日(水) エフェソ 2:1～10 行いではなく恵みによって

2:1 さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。

2:2 この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。

2:3 わたしたちも皆、こういう者たちの中において、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行

動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。

2:4 しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、

2:5 罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるので
す——

2:6 キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。

2:7 こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵み
を、来るべき世に現そうとされたのです。

2:8 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の
賜物です。

2:9 行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。

2:10 なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、
キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

*私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛してくださった、その愛によって、私たちは救わ
れました。すべて、神さまのご計画、御業であるのに、自分のしたことを人と比べたり、誇ったりしてし
まう私たちです。神さまの前に、謙虚になりたいと思います。

●5月5日(木) エフェソ2:14~22 キリストにおいて一つ

2:14 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔
ての壁を取り壊し、

2:15 規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に
造り上げて平和を実現し、

2:16 十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

2:17 キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知
らせられました。

2:18 それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるので
す。

2:19 従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、

2:20 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、

2:21 キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。

2:22 キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。

*キリストは平和であるのに、平和を実現してくださったのに、今も、世界の各地で民族紛争や戦争
が起こっています。戦争はしていなくても、「〇〇人って…よね」と心のどこかで、決めつけたり、見下
したりしてしまう私たちです。一日も早く、キリストによって一つにされた神の家族、すべての方々の間
に、真の平和が実現しますようにと祈ります。

●5月6日(金) ローマ15:22~29 エルサレムへ行く目的

15:22 こういうわけで、あなたがたのところに何度も行こうと思いつつ、妨げられてきました。

15:23 しかし今は、もうこの地方に働く場所がなく、その上、何年も前からあなたがたのところに行きたいと切望していたので、

15:24 イスパニアに行くとき、訪ねたいと思います。途中であなたがたに会い、まず、しばらくの間でも、あなたがたと共にいる喜びを味わってから、イスパニアへ向けて送り出してもらいたいのです。

15:25 しかし今は、聖なる者たちに仕えるためにエルサレムへ行きます。

15:26 マケドニア州とアカイア州の人々が、エルサレムの聖なる者たちの中の貧しい人々を援助することに喜んで同意したからです。

15:27 彼らは喜んで同意しましたが、実はそうする義務もあるのです。異邦人はその人たちの霊的なものにあずかったのですから、肉のもので彼らを助ける義務があります。

15:28 それで、わたしはこのことを済ませてから、つまり、募金の成果を確実に手渡した後、あなたがたのところを経てイスパニアに行きます。

15:29 そのときには、キリストの祝福をあふれるほど持って、あなたがたのところに行くことになると思っています。

*「もうこの地方に働く場所がない」というほど、隅々まで伝道したパウロ。イエスさまの言葉に従って、エルサレム、そして、当時地の果てと思われていたイスパニアまで行こうという篤い思いを持っていたパウロ。全世界に出ていって福音を宣べ伝えるために、今の自分にできることを考えたいと思います。

●5月7日(土) 使徒言行録 21:1~16 主の御心を求めて

21:1 わたしたちは人々に別れを告げて船出し、コス島に直航した。翌日ロドス島に着き、そこからパタラに渡り、
21:2 フェニキアに行く船を見つけたので、それに乗って出発した。

21:3 やがてキプロス島が見えてきたが、それを左にして通り過ぎ、シリア州に向かって船旅を続けてティルスの港に着いた。ここで船は、荷物を陸揚げすることになっていたのである。

21:4 わたしたちは弟子たちを探し出して、そこに七日間泊まった。彼らは“霊”に動かされ、エルサレムへ行かないようにと、パウロに繰り返して言った。

21:5 しかし、滞在期間が過ぎたとき、わたしたちはそこを去って旅を続けることにした。彼らは皆、妻や子供を連れて、町外れまで見送りに来てくれた。そして、共に浜辺にひざまずいて祈り、

21:6 互いに別れの挨拶を交わし、わたしたちは船に乗り込み、彼らは自分の家に戻って行った。

21:7 わたしたちは、ティルスから航海を続けてプトレマイスに着き、兄弟たちに挨拶して、彼らのところで一日を過ごした。

21:8 翌日そこをたってカイサリアに赴き、例の七人の一人である福音宣教者フィリポの家に行き、そこに泊まった。

21:9 この人には預言をする四人の未婚の娘がいた。

21:10 幾日か滞在していたとき、ユダヤからアガボという預言する者が下って来た。

21:11 そして、わたしたちのところに来て、パウロの帯を取り、それで自分の手足を縛って言った。「聖霊がこうお告げになっている。『エルサレムでユダヤ人は、この帯の持ち主をこのように縛って異邦人の手に引き渡す。』」

21:12 わたしたちはこれを聞き、土地の人と一緒にあって、エルサレムへは上らないようにと、パウロにしきりに

頼んだ。

21:13 そのとき、パウロは答えた。「泣いたり、わたしの心をくじいたり、いったいこれはどういうことですか。主イエスの名のためならば、エルサレムで縛られることばかりか死ぬことさえも、わたしは覚悟しているのです。」

21:14 パウロがわたしたちの勧めを聞き入れようとしないので、わたしたちは、「主の御心が行われますように」と言って、口をつぐんだ。

21:15 数日たって、わたしたちは旅の準備をしてエルサレムに上った。

21:16 カイサリアの弟子たちも数人同行して、わたしたちがムナソンという人の家に泊まれるように案内してくれた。ムナソンは、キプロス島の出身で、ずっと以前から弟子であった。

*ただ、ひたすら、主のみ言葉を求めて、主のみ言葉に従って進もうとするパウロ。それに対して、まず、自分の身を守ってほしい、何も進んで苦しく危険な道を進まなくても…と思う周囲の人たち。現代の私たちの周りでも起こっていることではないでしょうか？主に従う覚悟を持ち、また、その覚悟を持った人を支える人になりたいと願います。

●5月8日(日) 使徒言行録 20：17～38 それでもエルサレムへ

20:17 パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。

20:18 長老たちが集まって来たとき、パウロはこう話した。「アジア州に来た最初の日以来、わたしがあなたがたと共にどのように過ごしてきたかは、よくご存じです。

20:19 すなわち、自分を全く取るに足りない者と思い、涙を流しながら、また、ユダヤ人の数々の陰謀によってこの身にふりかかってきた試練に遭いながらも、主にお仕えしてきました。

20:20 役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました。

20:21 神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証してきたのです。

20:22 そして今、わたしは、“霊”に促されてエルサレムに行きます。そこでどんなことがこの身に起こるか、何も分かりません。

20:23 ただ、投獄と苦難とがわたしを待ち受けているということだけは、聖霊がどこの町でもはっきり告げてくださっています。

20:24 しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証するという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。

20:25 そして今、あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています。わたしは、あなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。

20:26 だから、特に今日はっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。

20:27 わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。

20:28 どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分ものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。

20:29 わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。

20:30 また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。

20:31 だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。

20:32 そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。

20:33 わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。

20:34 ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。

20:35 あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」

20:36 このように話してから、パウロは皆と一緒にひざまずいて祈った。

20:37 人々は皆激しく泣き、パウロの首を抱いて接吻した。

20:38 特に、自分の顔をもう二度と見ることはあるまいとパウロが言ったので、非常に悲しんだ。人々はパウロを船まで見送りに行った。

*自分の命を削るようにして、神さまのことを伝えたパウロ。たくさんの恵みを受けて祝福されたエフェソの人々は、この生活がこのまま続くことを願ったに違いありません。しかし、教会はそのままではできません。成長していかなければならないのです。そのためには、主の愛を受けた人がそれで満足するのではなく、伝える人にならなければなりません。辛い別れもあるでしょう。しかし、それが神の御心ならば受け入れ、従っていく強い信仰を持ちたいと願います。